

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
病理学	NSF12_004	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
成 昌燮	教員控室	syosyo_sei	月曜日 15:00~17:00		
授業の目的・概要	病気の仕組み（原因と発症機序）を理解し、病気の診断、治療および予防に役立つ方法を学ぶ。総論（病理病態学）では臓器組織の差を超えて共通にみられる基本7病変を、その成り立ちや種類などにより質的に分類し、疾患の原因、成り立ち、経過、転帰、などについて原則的にまとめ病気の原理を理解する。各論では総論で分類された病変(病態)を臓器別に学び、臨床医学の診断と治療・予防に関連させて理解する。 Microsoft Teams による同時双方向型授業を行う。事前に Teams 内に配布したクラス資料を印刷して参加する。Power Point 講義でキーワードを確認する。				
学習上の助言	教科書をしっかり読んで内容を正確に理解すること。				
教科書	系統看護学講座 基礎専門分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学（第5版）/著:大橋健一 他/医学書院/2019（2019年2月1日第5刷）				
参考書	特になし。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	知識：病気の成り立ちに必要な専門用語の定義を正しく説明できる		NS(1)(2)		
②	理解：病気の成り立ちについて総論的に理解できる		NS(1)(2)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	看護と病理学、病理学の歴史、医療における病理学の役割、病因、老化と死について学習する。	同時双方向型授業	病気の原因、病理診断について教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
2	医原病、公害病、職業がんについて学習する	同時双方向型授業	医原病、公害病などについて教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
3	細胞の損傷とその原因 適応現象（萎縮、肥大、過形成、化生、変性）細胞死（壊死、アポトーシス）について学習する。	同時双方向型授業	萎縮、肥大、過形成、化生、変性の概念を教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
4	代謝障害による疾患、(物質の沈着、各論)について学習する。	同時双方向型授業	代謝障害の疾患を教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
5	代謝障害による疾患、主に糖尿病「について学習する。	同時双方向型授業	糖尿病の病態・生理、合併症について教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
6	局所の循環障害（充血、うっ血、虚血、側副循環、血栓）について学習する。	同時双方向型授業	充血、うっ血、虚血、側副循環、血栓症概念を教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
7	局所の循環障害（塞栓、出血、梗塞）について学習する。	同時双方向型授業	塞栓、出血、梗塞について教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
8	全身の循環障害（浮腫、ショック、高血圧症、DIC）について学習する。	同時双方向型授業	浮腫、ショックの定義と種類、高血圧症の定義と分類、DIC について教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
9	中間まとめ①-⑦の知識の習熟度を確認する。	中間試験 オンライン	①-⑦の課題プリントを復習する。	4.5	
10	中間テスト問題について解説する。炎症の概念（原因、経過、治療、組織学的分類）について学習する。	同時双方向型授業	炎症の5主徴、経過、分類について教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
11	免疫のしくみ、液性免疫、細胞性免疫、能動免疫、自然免疫、免疫不全症について学習する。	同時双方向型授業	免疫の概念、液性免疫、細胞性免疫、マクロファージの仕組みについて教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
12	アレルギー、自己免疫疾患、移植、拒絶反応について学習する。	同時双方向型授業	アレルギーの分類、自己免疫疾患、移植の拒絶反応について教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
13	感染症（病原体、宿主の防御機構、感染症予防）について学習する。	同時双方向型授業	病原体の種類、宿主の防御機構を教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
14	先天異常と遺伝子異常について学習する。	同時双方向型授業	先天異常と遺伝子異常について教科書で確認しプリントを復習する。	0.5	
15	腫瘍一般：腫瘍の定義と分類 悪性腫瘍の転移（血行性・リンパ行性・播種性）について学習する	同時双方向型授業	腫瘍の定義、分類、転移について教科書で確認しプリントを復習する。	5	
試	定期試験				

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	病態生理学の理解に必要な専門用語、病気の成り立ち・科学的思考力の習得レベルを、第8回目の中間試験(50%)と定期試験(50%)の結果で評価する。				中間試験問題について解説する。授業終了後質問に答える。
	②	✓					
レポート	①						
	②						
成果発表	①						
	②						
ポートフォリオ	①						
	②						
その他	①						
	②						
備 考							
Teams による同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。今後の新型コロナウイルス感染症状況によって再度シラバスの変更が行われることもある。							
教員の実務経験：外科医(消化器外科)として14年の臨床経験がある。 実践的授業の内容：臨床経験を踏まえ、病気に関する基礎知識を解説する。							